提供：国立研究開発法人　水産研究・教育機構

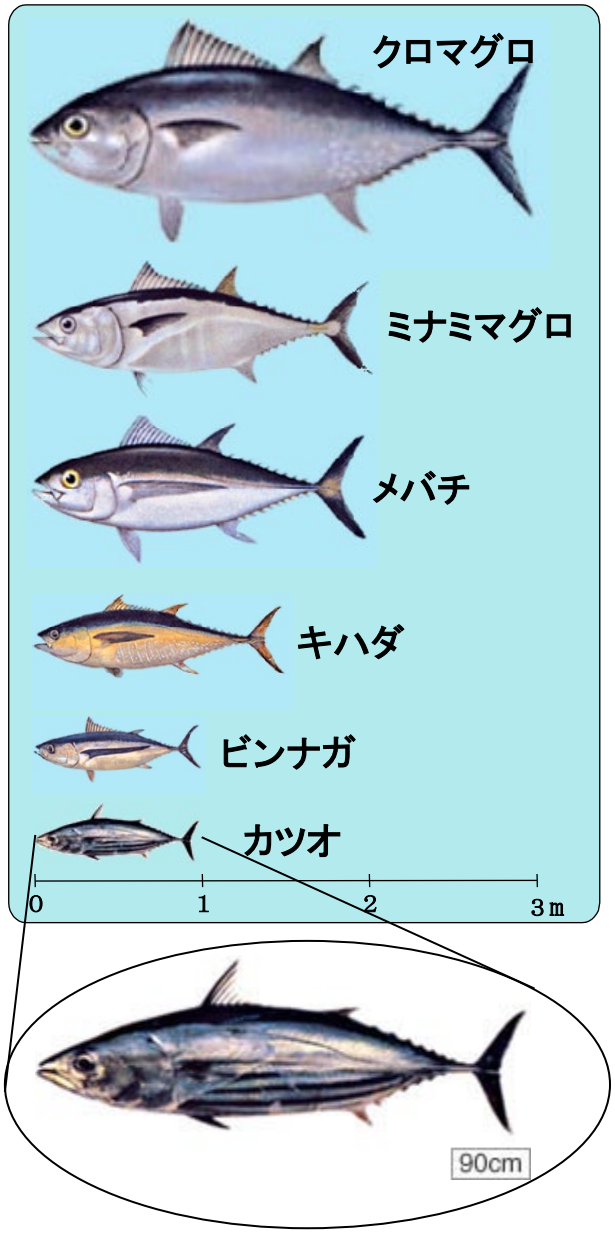
かつお・まぐろ類に関する国際情勢について

令和６年４月
水　　産　　庁

目次

１．　主要なかつお･まぐろの種類
２．　漁業の種類
３．　世界のかつお･まぐろ類漁獲量の推移
４．　海域別、国別、魚種別のかつお･まぐろ類漁獲量
５．　我が国のかつお･まぐろ類供給量と価格
６．　我が国におけるクロマグロ養殖
７．　かつお･まぐろ類の地域漁業管理機関
８．　主要なかつお･まぐろ類の資源状況

1. 主要なかつお・まぐろの種類



資料：日本かつお・まぐろ漁業協同組合

クロマグロ (Atlantic Bluefin Tuna / Pacific Bluefin Tuna)：
地中海を含む大西洋、太平洋の主として北半球に分布（大西洋と太平洋で別種）。本マグロとも呼ばれ、マグロ類の中でも最高級品とされる。インド洋には分布しない。主に刺身に利用。

ミナミマグロ (Southern Bluefin Tuna)：
南半球の高緯度海域を中心に分布。インドマグロとも呼ばれ、クロマグロに次ぐ高級品とされる。主に刺身に利用。

メバチ (Bigeye Tuna)：
世界中の温帯から熱帯の海域に分布。目玉が大きくぱっちりしていることから目鉢マグロと呼ばれる。主に刺身に利用。

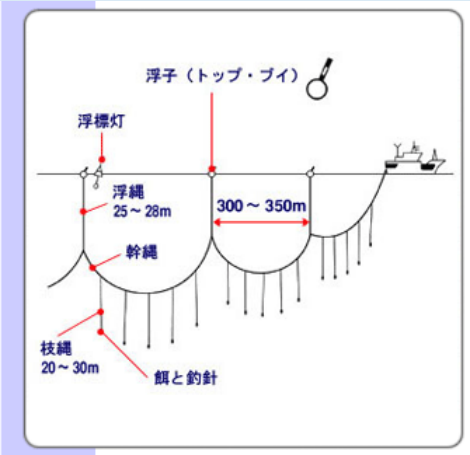
キハダ (Yellowfin Tuna)：
メバチとほぼ同じ海域に分布。体色が黄色味がかっていることから黄肌マグロと呼ばれる。刺身及び缶詰に利用。

ビンナガ (Albacore)：
世界中の海に広く分布する小型のマグロ。長い刀状の胸びれが特徴で油漬けの缶詰の原料になる。最近は刺身にも利用される。ビンチョウ、トンボとも呼ばれる。

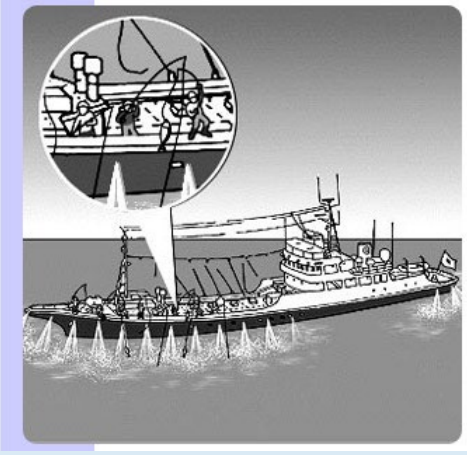
カツオ (Skipjack)：
世界中の海に広く分布し、特に南方水域では一年中獲られる。腹側に濃青色のしまが入っているのが特徴。かつおは用途が広く、刺身、タタキ、節、缶詰等に利用される。

2. 漁業の種類

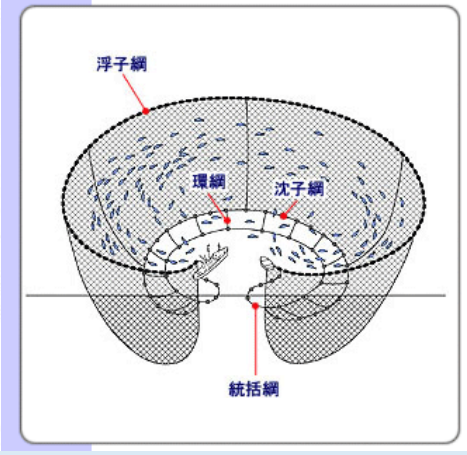
図：一般社団法人大日本水産会、長崎県



はえ縄



竿釣り　※図は一本釣り



まき網

曳き縄釣り

はえ縄

・主にクロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガを対象

竿釣り

・主にカツオ、ビンナガを対象

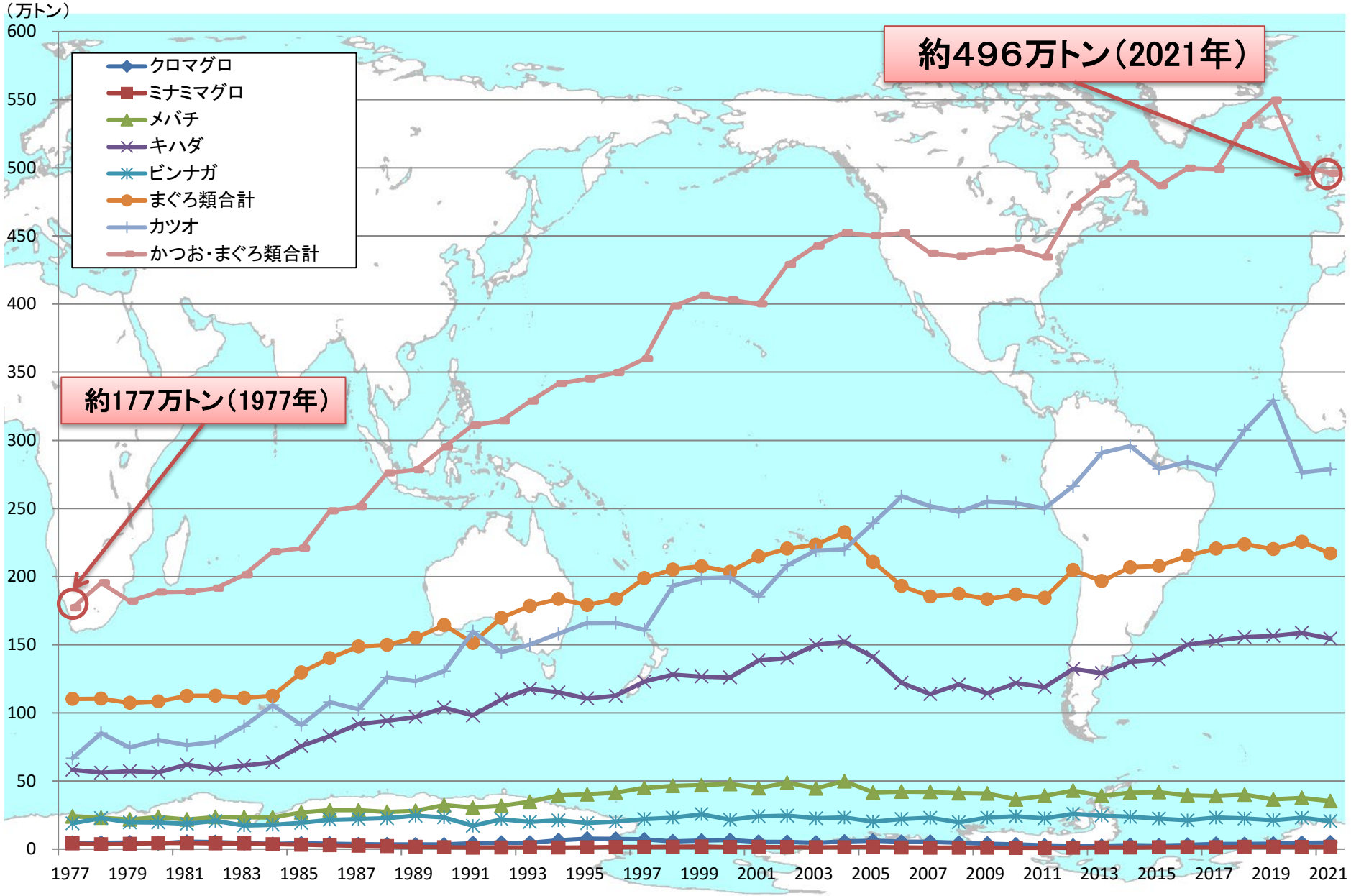
まき網

・主にクロマグロ、カツオ、キハダを対象

曳き縄釣り

・主にクロマグロを対象

3. 世界のかつお・まぐろ類漁獲量の推移



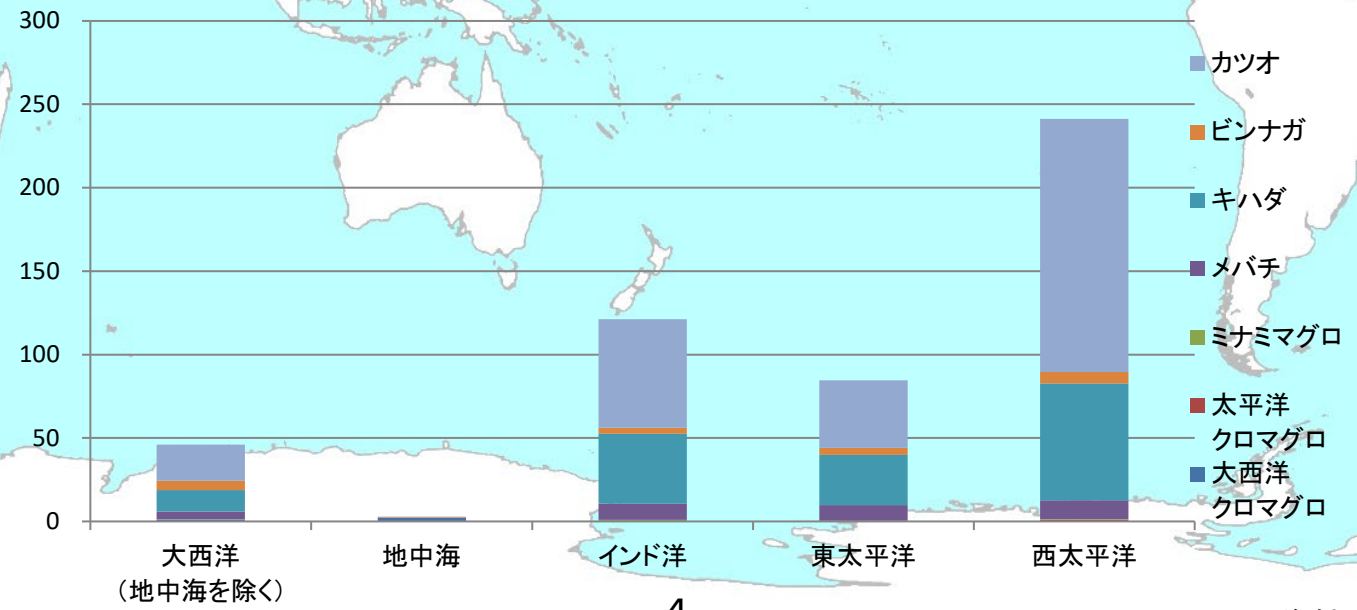
資料：FAO統計

4-1. 海域別のかつお・まぐろ類漁獲量（2021年）

（単位：万トン）

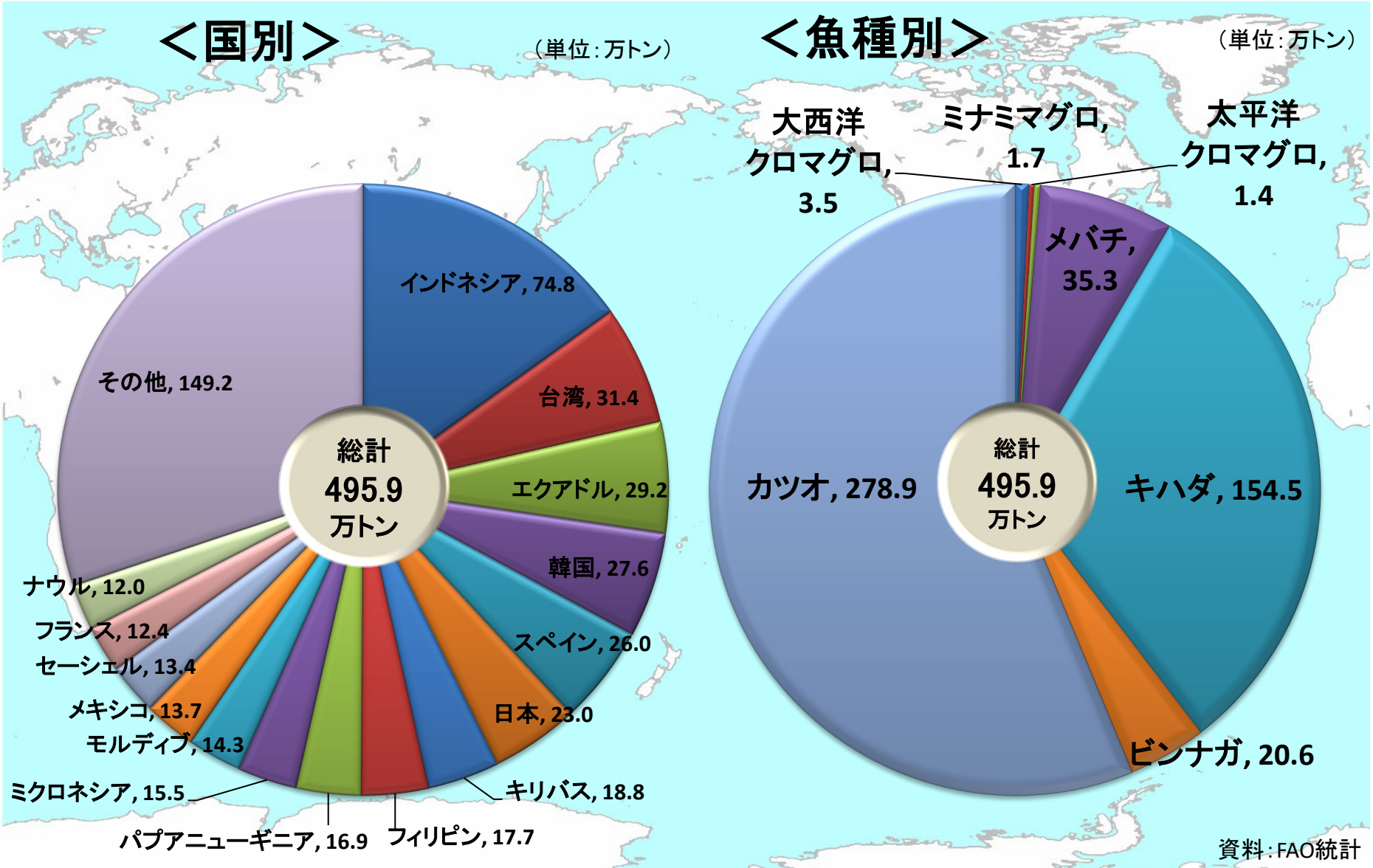
	合計	大西洋クロマグロ	太平洋クロマグロ	ミナミマグロ	メバチ	キハダ	ビンナガ	カツオ
大西洋（地中海を除く）	46.1 (2)	1.1 (0.4)	－ －	0.2 (0.1)	4.7 (1)	12.7 (0.3)	5.7 (0.2)	21.6 (0)
地中海	2.7 －	2.4 －	－ －	－ －	0.0 －	0.0 －	0.3 －	0.1 －
インド洋	121.2 (0.9)	－ －	－ －	1.1 (0.3)	9.8 (0.3)	41.8 (0.1)	3.5 (0.2)	65.1 (0)
東太平洋	84.7 (0.7)	－ －	0.4 －	－ －	9.5 (0.4)	30.0 (0.1)	4.3 (0.1)	40.5 (0)
西太平洋	241.2 (19.4)	－ －	1.0 (0.9)	0.4 (0.2)	11.3 (1.1)	70.0 (3.4)	6.8 (2.5)	151.7 (11.3)
合計	495.9 (23)	3.5 (0.4)	1.4 (0.9)	1.7 (0.6)	35.3 (2.8)	154.5 (4)	20.6 (3)	278.9 (11.3)

注：括弧内は我が国の漁獲量　　集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。



資料：FAO統計

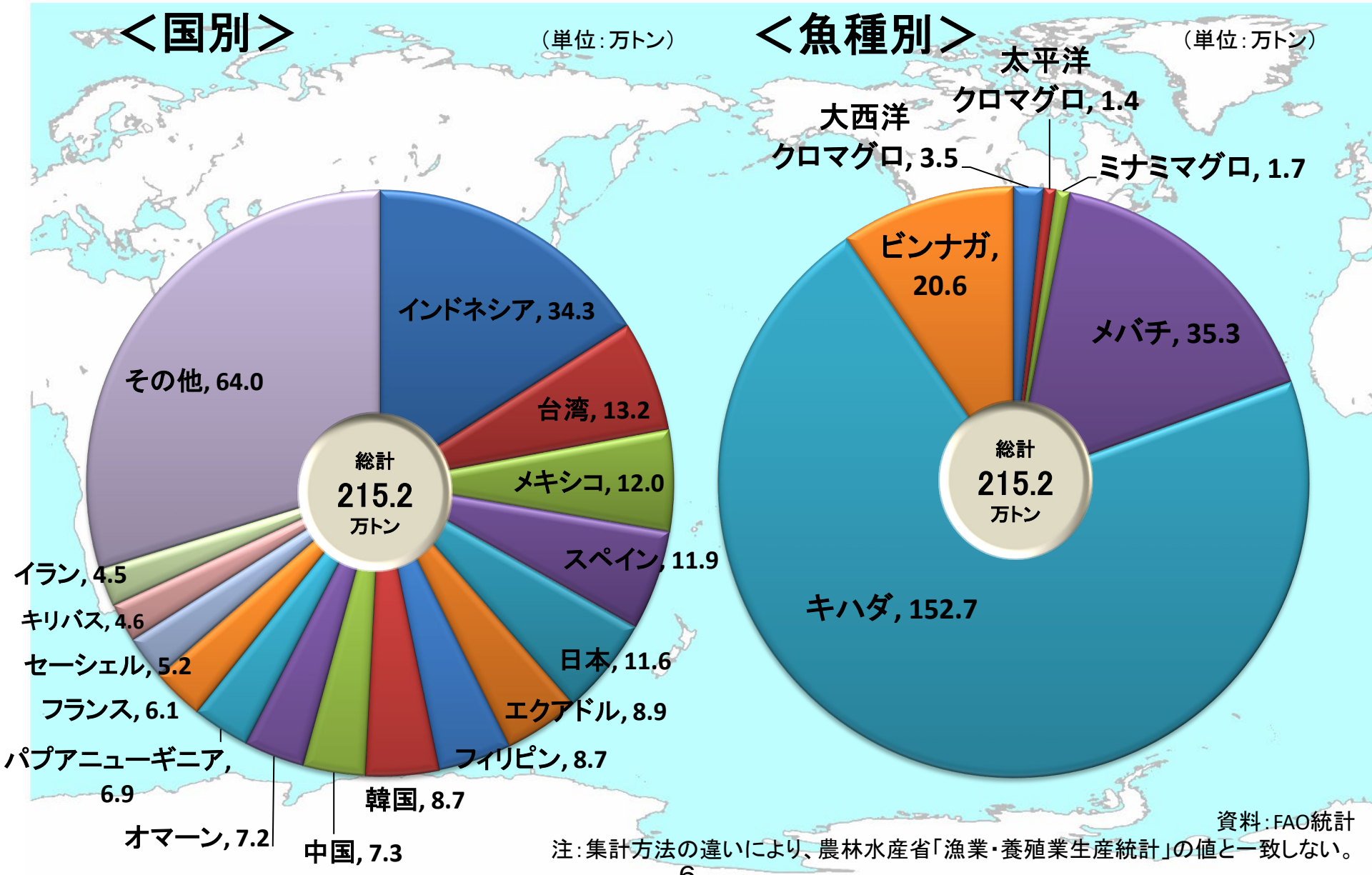
4-2. 国別/魚種別のかつお・まぐろ類漁獲量（2021年）



資料：FAO統計

注：集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

4-3. 国別/魚種別のまぐろ類漁獲量（2021年）



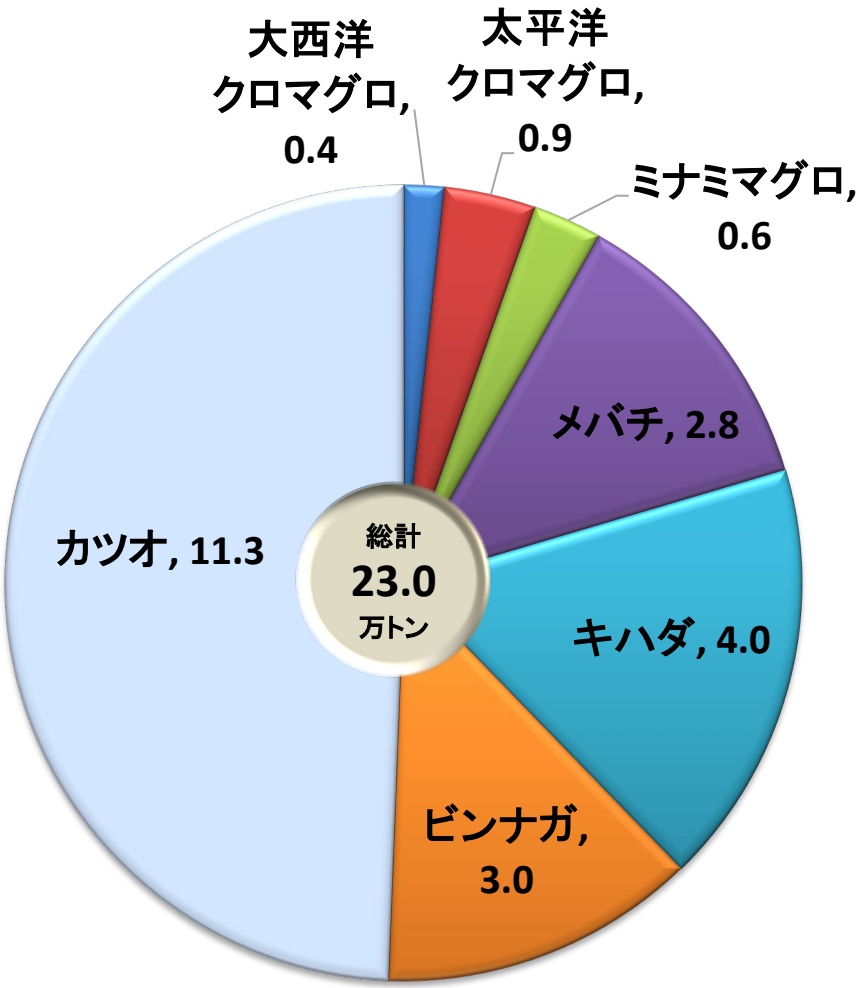
資料：FAO統計

注：集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

4-4. 我が国のかつお・まぐろ類/まぐろ類魚種別漁獲量（2021年暫定値）

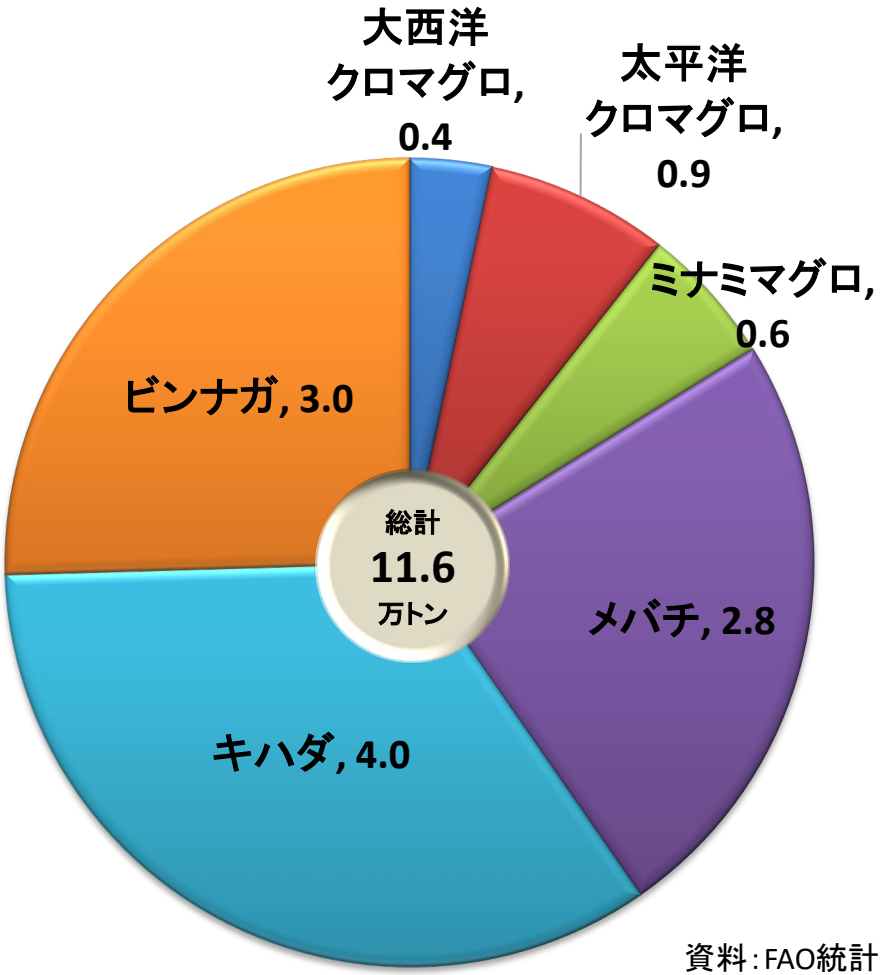
＜かつお・まぐろ類＞

（単位：万トン）



＜まぐろ類＞

（単位：万トン）



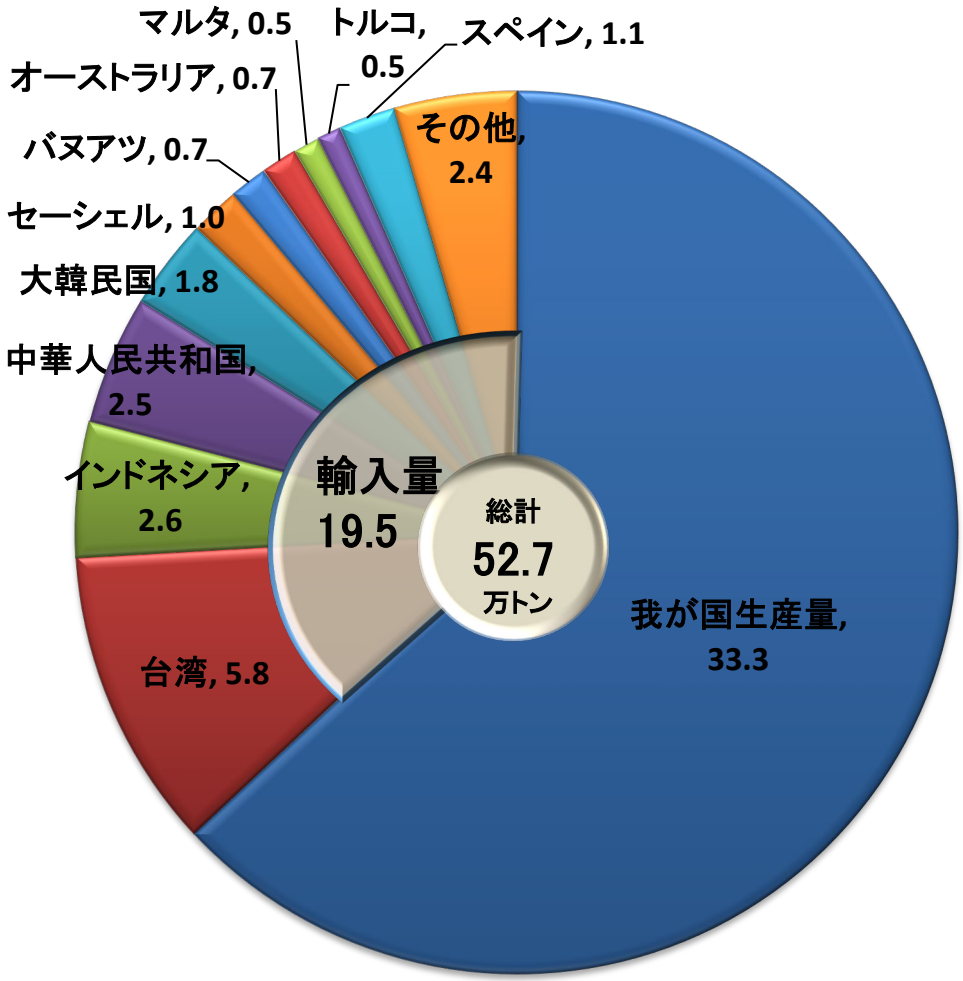
資料：FAO統計

注：集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

注：国内養殖生産量を含まない。

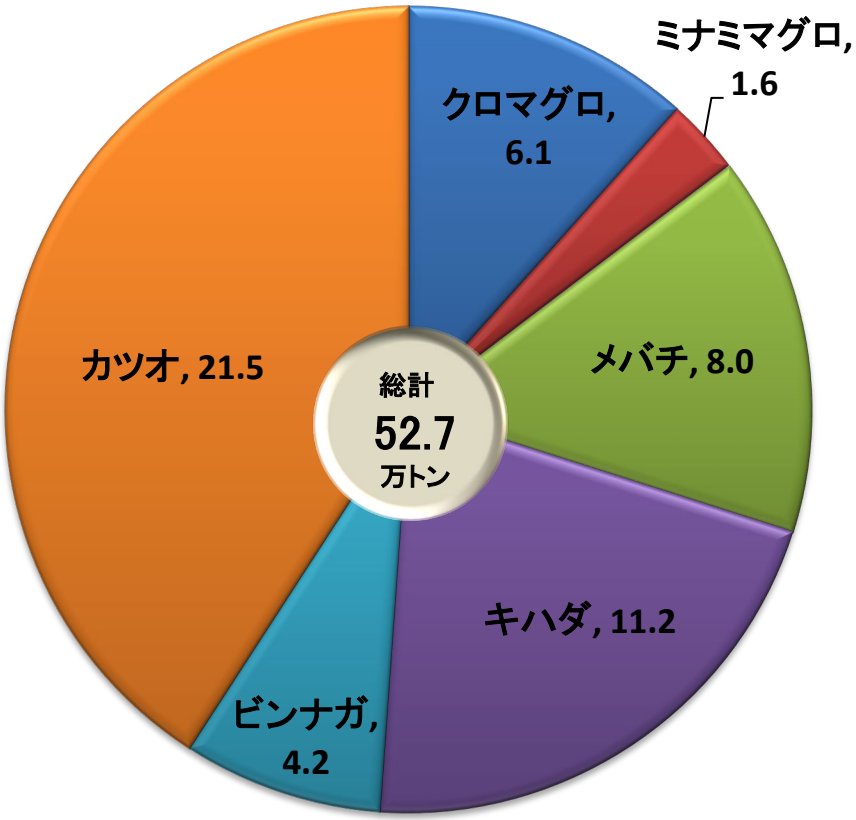
5-1. 我が国の生産国別/魚種別
かつお・まぐろ類供給量(2022年)

＜生産国別（推計）＞



＜魚種別（推計）＞

（単位：万トン）

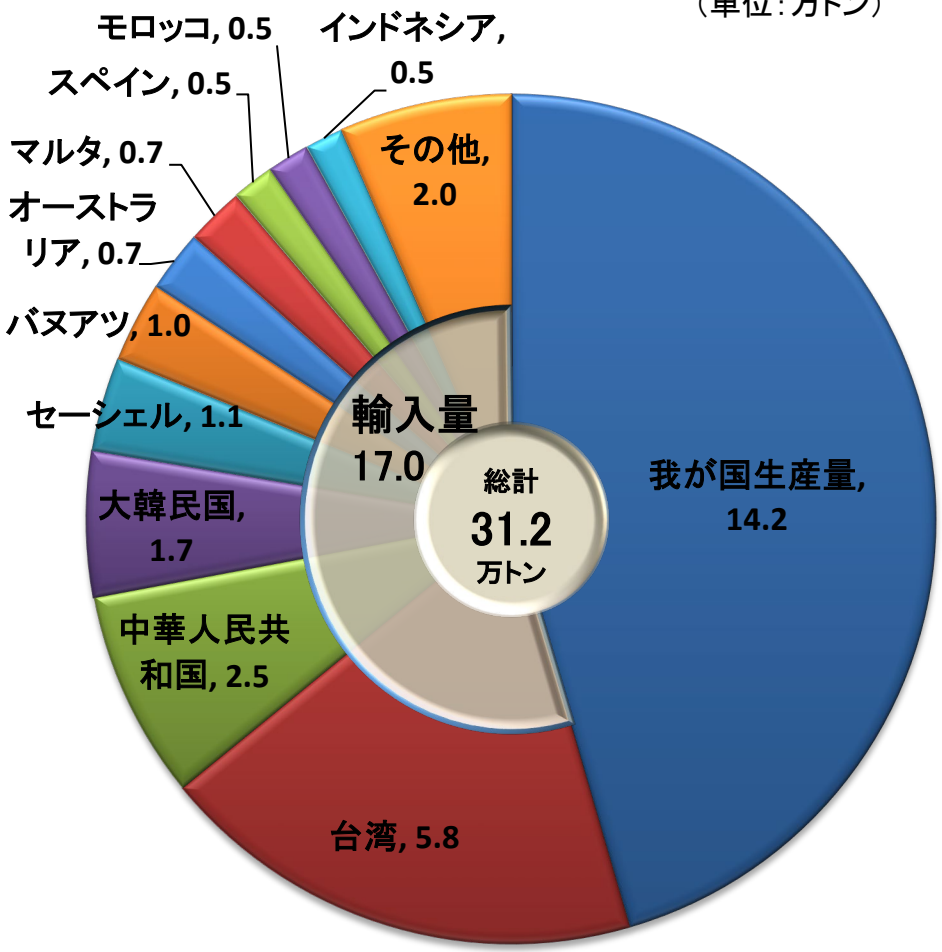


資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び財務省「貿易統計」に基づく推計
注：国内養殖生産量（クロマグロ）を含む

5-2. 我が国の生産国別/魚種別
まぐろ類供給量（2022年）

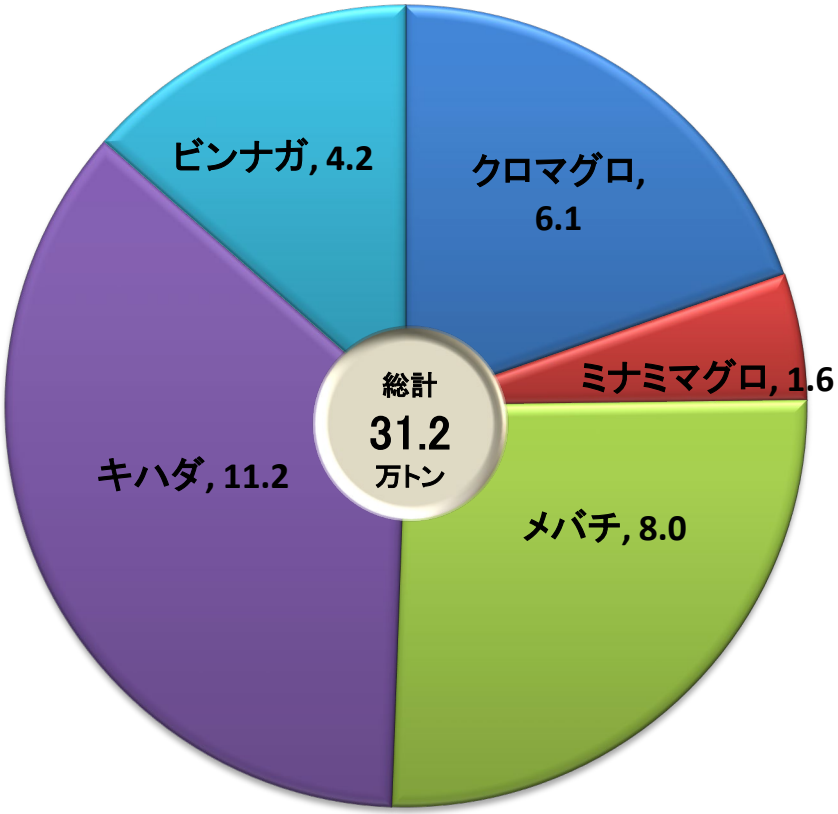
＜生産国別（推計）＞

（単位：万トン）



＜魚種別（推計）＞

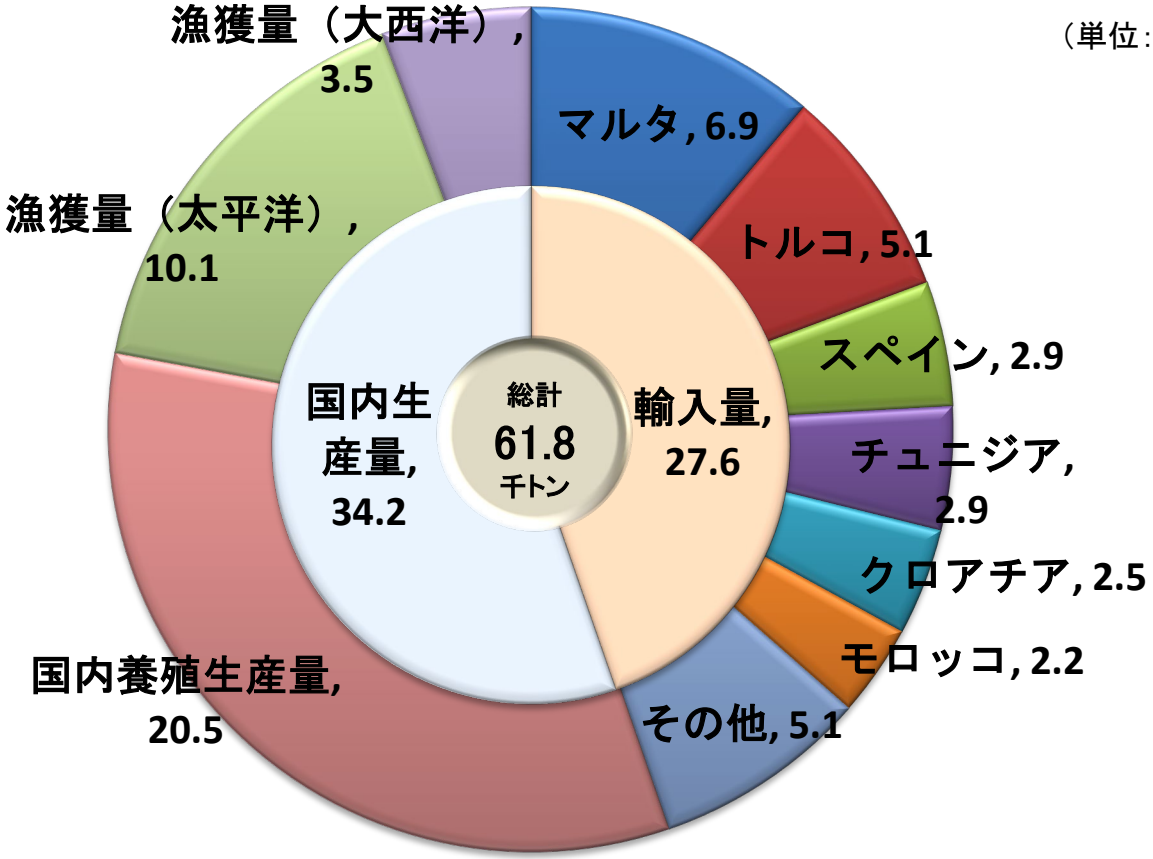
（単位：万トン）



資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び財務省「貿易統計」に基づく推計
注：国内養殖生産量（クロマグロ）を含む

5-3. 我が国のクロマグロ供給量（推計）（2022年）

（単位：千トン）

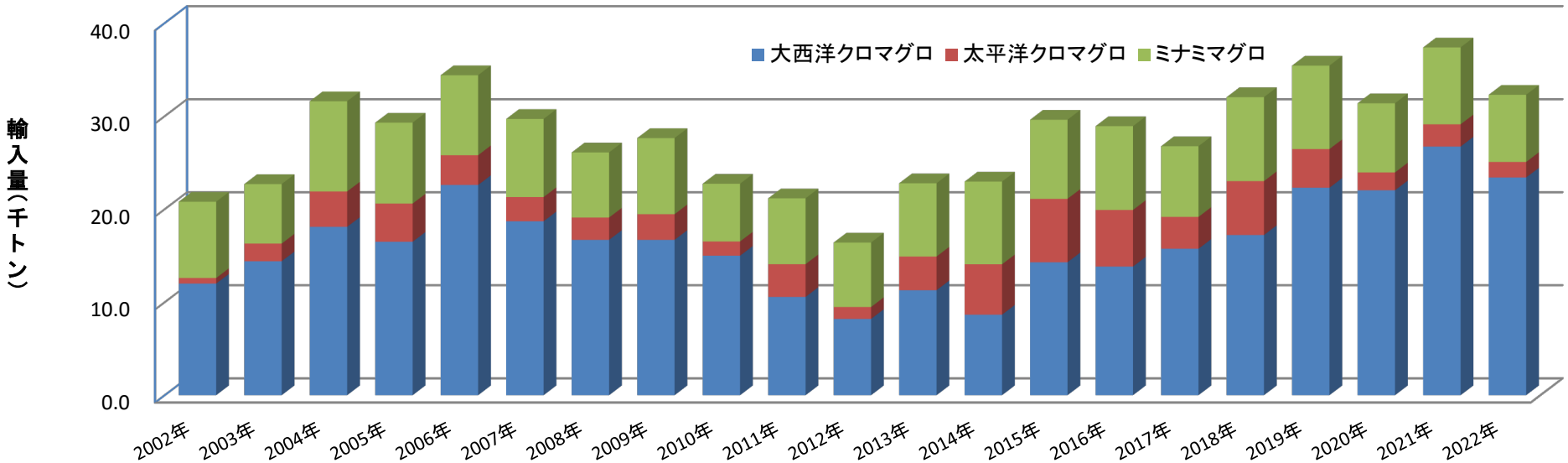


太平洋クロマグロ	国内漁獲量	約10,112トン（暫定値）
	国内養殖生産量	約20,526トン
	輸入量	約 2,436トン
大西洋クロマグロ	国内漁獲量	約 3,529トン
	輸入量	約25,191トン

資料：ISC（暫定値）、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」及び財務省「貿易統計」に基づく推計
注：大西洋クロマグロの漁獲量は水産庁調べ（「8月～翌7月」）
注：魚種別（太平洋、大西洋）の輸入量は国名から推定

5-4. 我が国の養殖まぐろ輸入量の推移

養殖マグロ輸入量の推移（製品重量：千トン）



魚種	海域	国名		2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
クロマグロ	地中海	ＥＵ	スペイン	4.7	4.3	4.3	4.4	3.7	3.3	3.9	2.1	1.7	1.5	1.9	2.3	1.7	2.9	2.9	3.0	3.3	3.6	3.1	4.8	2.9
			マルタ	1.1	0.7	1.7	2.2	4.5	2.2	4.5	3.0	2.7	3.5	1.8	4.3	2.2	4.9	5.2	6.3	6.6	8.5	7.8	6.7	6.9
			キプロス	0.0	0.0	0.3	0.7	1.1	0.8	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			イタリア	0.9	1.2	0.6	1.1	2.7	2.8	1.8	1.0	5.6	0.0	0.3	0.1	0.1	0.4	0.2	0.3	0.8	1.3	1.4	1.0	0.9
			ギリシャ	0.1	0.1	0.1	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
			クロアチア*1	(2.2)	(2.7)	(3.6)	(2.5)	(4.7)	(4.0)	(1.3)	(3.7)	(1.9)	(2.3)	(1.9)	1.5	1.9	1.9	1.8	2.0	1.7	2.5	2.2	2.6	2.5
			ＥＵ計	6.8	6.3	7.0	8.8	12.8	9.5	11.3	7.3	10.6	5.9	4.2	8.4	6.0	10.2	10.2	11.7	12.6	16.0	14.5	15.2	13.3
		トルコ		0.3	1.6	2.8	2.8	3.2	3.4	2.3	3.5	1.2	1.5	1.5	1.6	1.4	2.0	1.8	2.1	2.7	3.2	3.8	4.6	5.1
		チュニジア		0.3	0.5	0.7	1.3	1.7	1.8	1.8	2.3	1.1	1.0	0.6	1.3	1.2	1.0	0.6	0.8	0.4	0.8	1.4	2.0	2.9
		パナマ*2		2.4	3.3	4.0	1.1	0.2	–	–	–	0.2	0.0	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	大西洋	モロッコ		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1.0	1.2	1.3	1.5	2.2	2.4	5.0	2.2
	大西洋クロマグロ　計			12.0	14.4	18.1	16.5	22.6	18.7	16.7	16.7	15.0	10.6	8.2	11.3	8.7	14.3	13.8	15.7	17.2	22.3	22.0	26.7	23.4
	太平洋	メキシコ		0.6	1.9	3.8	4.1	3.2	2.6	2.4	2.8	1.5	3.5	1.3	3.6	5.4	6.8	6.1	3.4	5.8	4.2	1.9	2.4	1.7
	クロマグロ　計			12.6	16.3	21.9	20.6	25.8	21.3	19.1	19.5	16.5	14.1	9.5	14.9	14.1	21.1	19.9	19.2	23.0	26.5	23.9	29.1	25.1
ミナミマグロ		オーストラリア		8.2	6.4	9.7	8.7	8.6	8.4	7.0	8.2	6.2	7.1	6.9	7.9	8.9	8.5	9.0	7.6	9.0	9.0	7.4	8.3	7.2
合計				20.8	22.7	31.6	29.3	34.4	29.7	26.1	27.7	22.7	21.2	16.4	22.8	23.0	29.6	28.9	26.8	32.0	35.4	31.4	37.4	32.3

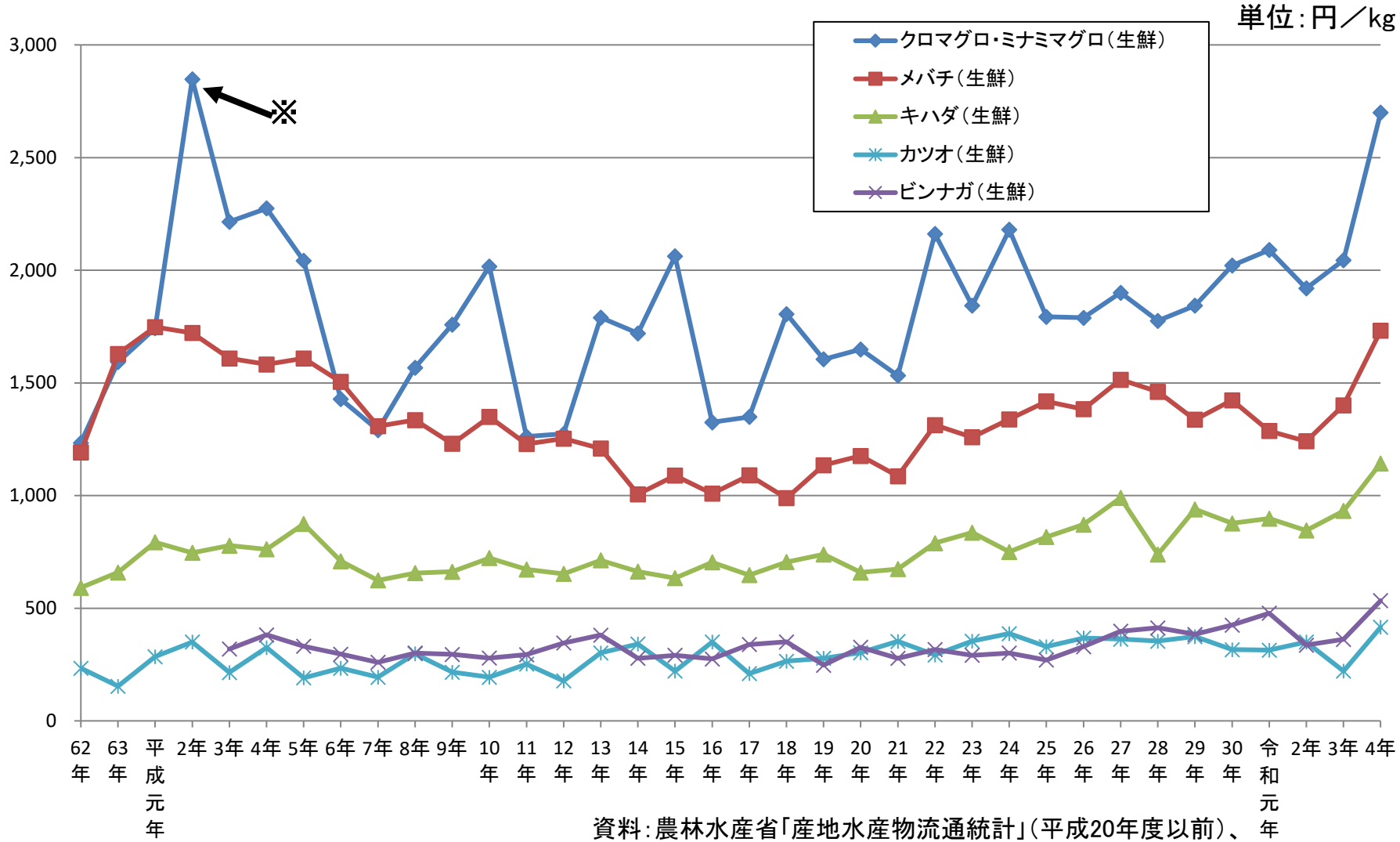
*1：EUに加盟した2013年より合算

*2：パナマ籍船舶において船上加工されたもので、原料は地中海産の養殖クロマグロと推定

資料：財務省貿易統計（国名及び魚種から養殖生産と推定）

注：製品重量

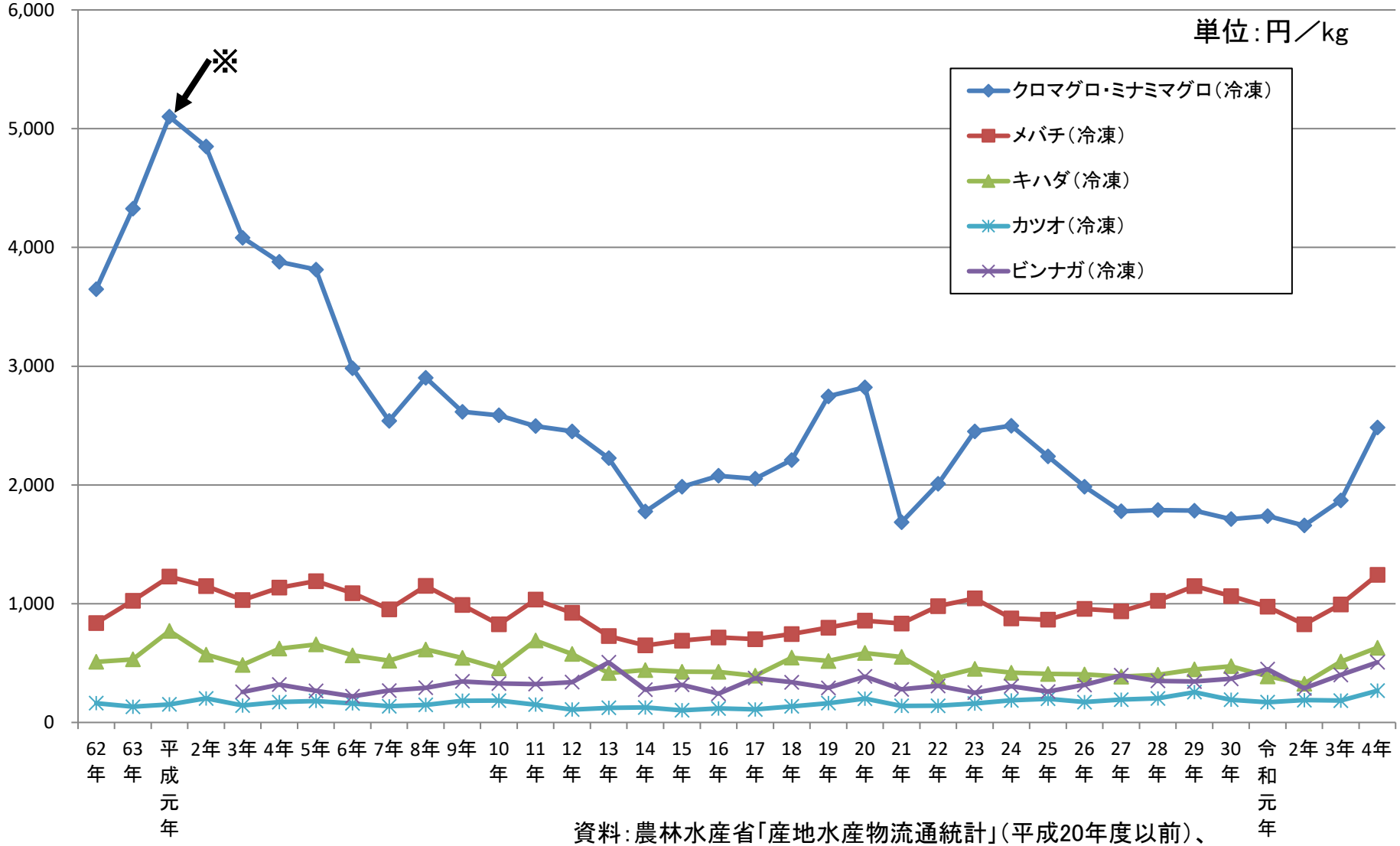
5-5. かつお・まぐろ類価格（卸売価格）の推移（生鮮）



資料：農林水産省「産地水産物流通統計」（平成20年度以前）、
（一社）漁業情報サービスセンター「産地水産物流通統計」（平成21年度以降）
注：クロマグロ・ミナミマグロは両魚種の加重平均

※ バブル経済下での高級品需要の高まりにより「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は、平成２年がピーク（2,848円/kg）となった。

5-6. かつお・まぐろ類価格（卸売価格）の推移（冷凍）



資料：農林水産省「産地水産物流通統計」（平成20年度以前）、
（一社）漁業情報サービスセンター「産地水産物流通統計」（平成21年度以降）
注：クロマグロ・ミナミマグロは両魚種の加重平均

※ バブル経済下での高級品需要の高まりにより「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は、平成元年がピーク（5,101円/kg）となった。

6. 我が国におけるクロマグロ養殖

クロマグロ養殖の現状

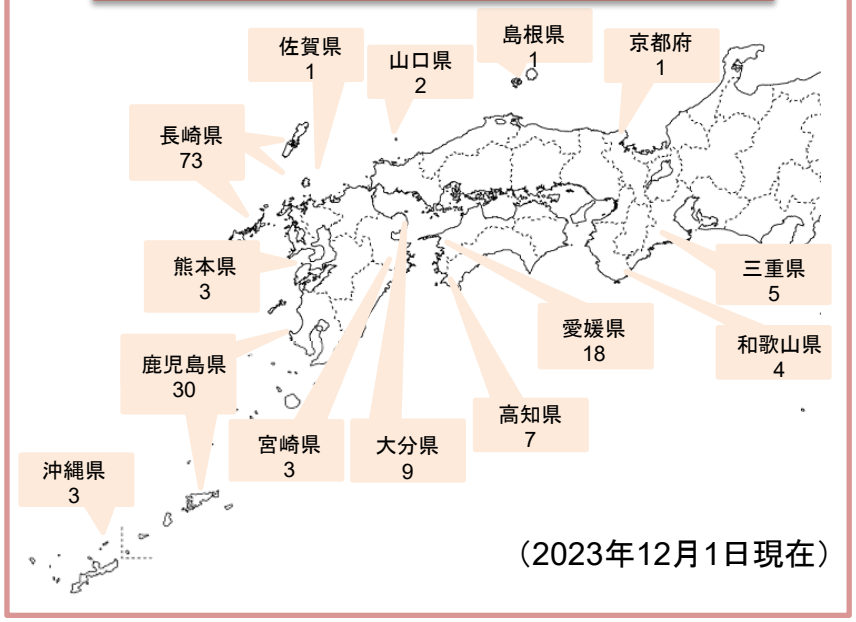
- クロマグロは、水温、水質等の条件に恵まれた地域や養殖種苗の漁獲地の近くなどで養殖。
- 全国のまぐろ類養殖の経営体数は、77経営体(160漁場)
- 国内では、曳き縄釣りで漁獲した全長20～30 cm、体重100～500 g 程度の幼魚(ヨコワ)等を生け簀に入れ2～3年飼育して出荷するスタイル。

*経営体数、漁場数は令和5(2023)年12月1日現在

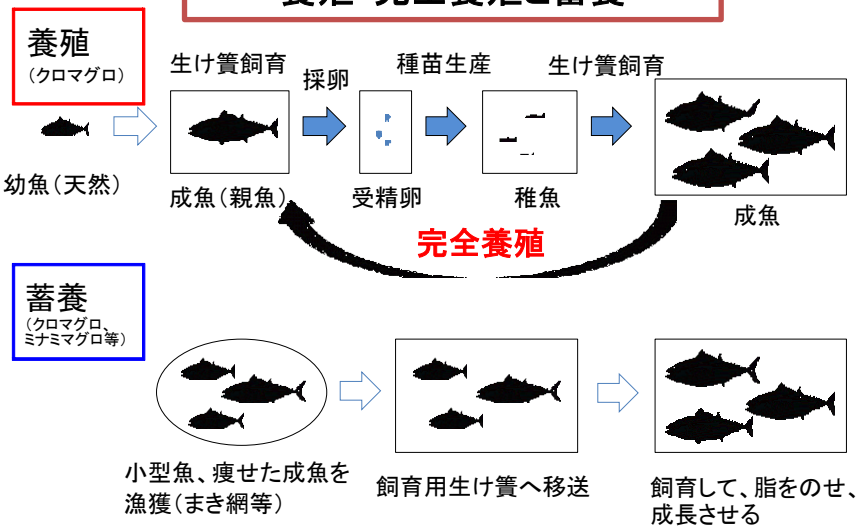
クロマグロ養殖の課題

- 天然資源に頼らずに養殖を行うための、人工種苗の量産技術の開発
- 養殖用配合飼料の開発
- 海象条件等の厳しい海域での養殖を可能とする技術開発

全国のクロマグロ養殖場
全国計:160漁場



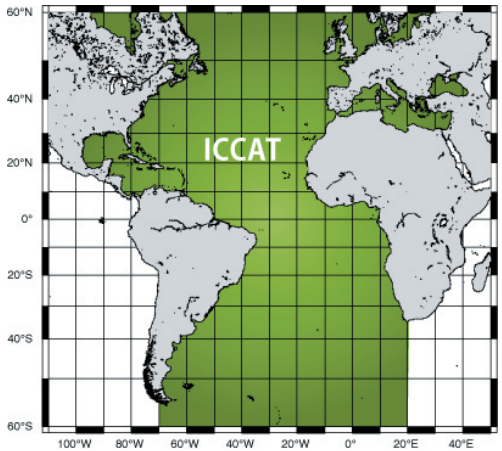
養殖・完全養殖と蓄養

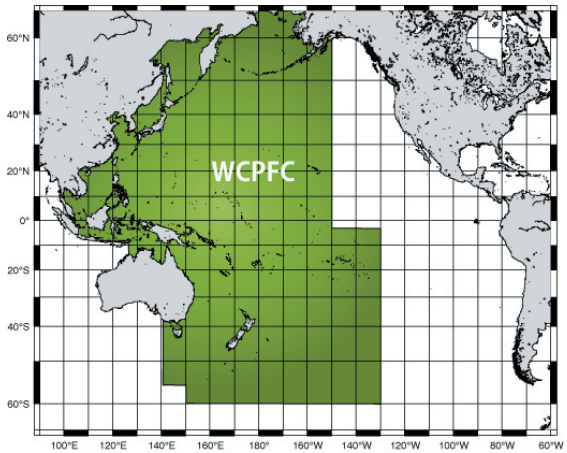


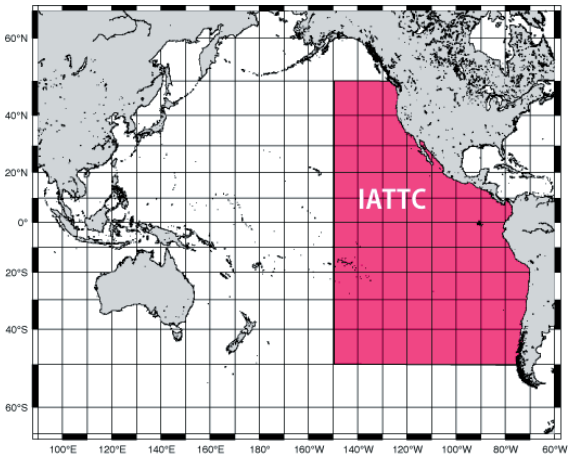
7-1. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関（RFMO）

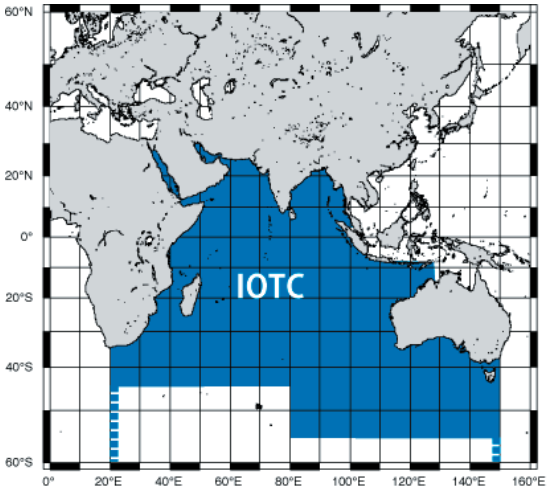
Tunas Regional Fisheries Management Organization

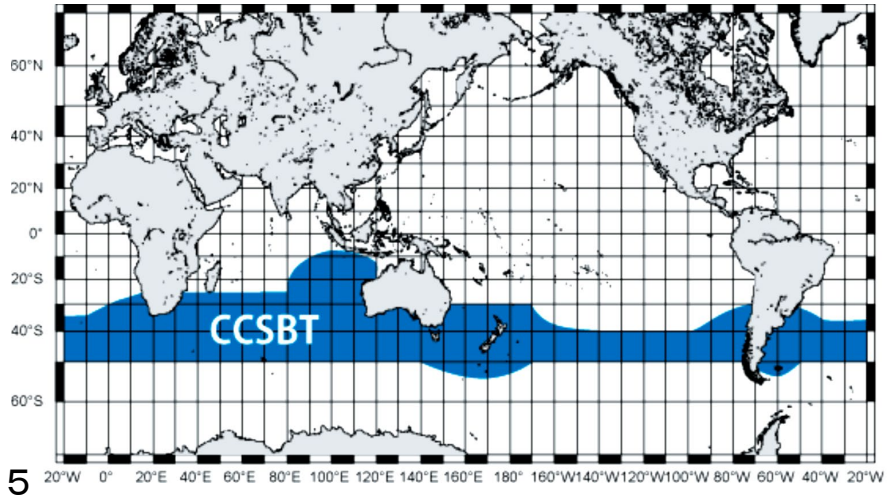
○ 5つのRFMOが全世界の海洋を管理。我が国はすべてのRFMOに加盟。
○ RFMOは魚種ごとの資源状況等を踏まえ種々の資源管理措置を実施。
○ 我が国にとって特に重要なのは、我が国排他的経済水域を管理する中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）と 大西洋くろまぐろを管理する大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）。











７－２. RFMOにおける主な規制措置

WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）

<年次会合：毎年12月開催>

①熱帯マグロ（メバチ・キハダ・カツオ）

（a） 熱帯水域のまき網漁業（2024～2026年の措置）

・集魚装置（ FAD ）操業の禁止（1.5ヶ月）

・公海は追加で1ヶ月FAD操業禁止

・島嶼国以外のメンバーは自国籍大型まき網漁船隻数凍結

（b）はえ縄漁業

我が国のメバチの漁獲枠は18,265トン※。

※オブザーバーカバー率（現行5%義務）の増加に応じて、漁獲上限を最大 10%増やすことが可能。

②太平洋クロマグロ

(a)暫定回復目標達成後10年以内に60%以上の確率で初期資源量の20%まで回復させる。

（b） 30kg未満小型魚の漁獲制限 全体：4,725トン　日本：4,007トン

（c） 30kg以上の大型魚の漁獲制限 全体：7,609トン　日本：5,614トン

IATTC（全米熱帯まぐろ類委員会）

<年次会合：毎年7月又は8月開催>

①メバチ・キハダ（2022～2024年の措置）

（a） まき網漁業

・72日間の全面禁漁（メバチの漁獲量に応じて禁漁期間を延長）

・沖合特定区での1か月間の禁漁

・集魚装置（FAD）の使用数制限

(b) はえ縄漁業：国別メバチ漁獲枠の設定（我が国漁獲枠は32,372トン）。

②太平洋クロマグロ

(a)暫定回復目標達成後10年以内に60%以上の確率で初期資源量の20%まで回復させる。

（b） 商業漁業については、2021～2022年の漁獲量の合計が7,295トン、2023～2024年の漁獲量の合計が7,990トンを超えないように管理する。

（c） 漁獲のうち、30キロ未満の小型魚の漁獲比率を50%以下とするよう努力。

ICCAT（大西洋まぐろ類保存国際委員会）

<年次会合：毎年11月開催>

①MP（管理方式）による総漁獲可能量（TAC）の管理 （東大西洋クロマグロ 2023～2025年漁期：：40,570t、東大西洋クロマグロ 2023～2025年漁期：：2,726t ）。

②30kg未満の大西洋クロマグロの採捕、保持、水揚げを原則禁止。

③保存管理措置に反したクロマグロの輸出入の禁止と、養殖の監視措置等クロマグロの管理を強化。

④運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。

⑤クロマグロに対する漁獲証明制度（CDS）の導入。

IOTC（インド洋まぐろ類委員会）

<年次会合：毎年5月又は6月開催>

①キハダについて、過去の漁獲量に応じ、国別漁獲上限の設定。

（a）2014年水準から21%削減、(b)2017～2019年の最大漁獲量以下に制限（我が国）、(c)2,000トン以下に制限。

②MP（管理方式）によるメバチの総漁獲可能量（TAC）の管理（2024～2025年漁期：80,583t）。

③まき網漁業について、小型魚が多く漁獲される集魚装置（FAD）の使用可能回数の制限。

④運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。

CCSBT（みなみまぐろ保存委員会）

<年次会合：毎年10月開催>

①MP（管理方式）によるミナミマグロの総漁獲可能量（TAC）の管理。（2024～2026年漁期：20,647t）

②ミナミマグロに対する漁獲証明制度（CDS）の導入。

※2024年３月１日現在の情報です。
最新の会議結果についてはプレスリリースをご覧ください。

8. 主要なかつお・まぐろ類の資源状況

魚種	ICCAT 大西洋	IOTC インド洋	IATTC 東部太平洋	WCPFC 中西部太平洋	CCSBT ミナミマグロ
クロマグロ	東大西洋： －／－ 西大西洋： －／－		＋／－		
ミナミマグロ					＋／－
メバチ	－／＋	＋／＋	＋／－	－／－	
キハダ	－／－	＋／＋	－／－	－／－	
ビンナガ	北大西洋： －／－ 南大西洋： －／－	－／－		北太平洋： －／－ 南太平洋： －／－	
カツオ	－／－	＋／＋	－／－	－／－	

（注）「資源水準／漁獲圧」の順に表示　　資料：水産庁「令和5年度　国際漁業資源の現況」、ICCAT　SCRSレポート（2023）

資源水準：乱獲状態である場合は「＋」、乱獲状態でない場合は「－」に区分。
漁獲圧：過剰漁獲である場合は「＋」、過剰漁獲でない場合は「－」に区分。